

日本オリエント学会第 62 回大会 公開シンポジウム開催趣意書

大会実行委員長
周藤芳幸（名古屋大学）

この度は、コロナ禍によって各学会が年次大会の中止や規模縮小を余儀なくされているなか、オンラインながらもほぼ例年通りの形で、歴史あるオリエント学会の年次大会を本学で開催できる見通しが立ちましたことは、すべての学会員の皆様、そして近藤会長をはじめとする学会役員の方々のご理解とご尽力の賜物であり、初めに開催校を代表して厚く御礼申し上げる次第です。

さて、今大会では、「ぜひ主催校の特色を活かした企画を」という学会の意向を受け、総合大学としての名古屋大学の強み、とりわけ大会開催の実務を中心的に担当している名古屋大学高等研究院が異分野融合と学際研究の推進をミッションとしていることを踏まえ、「オリエントの学際研究—エジプト学の未来—」と題する公開シンポジウムを、別紙の要領で開催することといたしました。わが国におけるオリエント研究の発展の過程では、すでに様々な領域で学際的な研究が試みられ、それらが注目すべき成果を上げてきたことは周知の通りですが、このシンポジウムでは、特に本学が力を入れているエジプト文明研究を一つの事例として取り上げ、「デジタル化／デジタルトランスフォーメーション」、「オープンイノベーション」、「文理融合」などのキーワードを手掛かりに、オリエント研究の未来に新たな展望を拓くことを目指して、参加される皆様と闊達な意見交換を行いたいと思いません。

このような目的のために、パネリストとしては、考古学から言語学、素粒子物理学にいたる様々な分野の最先端で活躍中の中堅・若手の研究者にご登壇をいただきます。また、コメンテーターとしては、名古屋にゆかりのあるお二人の若手女性研究者にご発言をお願いすることにいたしました。ウェビナーという開催形態のために、ご不便をおかけすることもあるかとは存じますが、ぜひこの機会にエジプト文明研究を事例とする学際研究の現状と将来に思いをいたすとともに、皆様がそれぞれの専門分野で今後さらに学際研究を進めていくにあたっての参考としていただければ幸甚に存じます。